

男子バレーボール部 総体レポート

日時：5月28日

場所：田辺工業高校

一回戦：近大和歌山高校

セットカウント1-2 負け

二回戦：笠田高校

セットカウント1-2 負け



5月28日、田辺工業高校体育館にて、平成28年度和歌山県高等学校総合体育大会バレーボール大会兼全国総合体育大会兼予選大会が行われた。

この大会、熊野高校男子バレー部はいつにない意気込みを抱いていた。

言うまでもなく総体は、三年生にとっての最後の大会である。そして、熊野高校男子バレー部の三年生の選手はたった一人。キャプテンを除く二年生・一年生は全員高校からバレーボールを始めた部員ばかり。たった一人で部を引っ張り、支えてきたキャプテンと試合ができる最後の大会だった。このチームになって、部員は、公式戦まだ未勝利だ。

三年生マネージャーが用意した、背番号の縫い付けられたおそろいのタオルをもって、熊野高校男子バレーボール部は会場入りした。

一回戦は近大和歌山高校と対戦した。

しかし、試合開始三点目。センターポジションの選手が怪我をした。捻挫。とても試合を続けられる状態ではなかった。チームに動揺が走った。

直近の地区大会でも同様に選手が怪我をして、満足できる試合ができずに負けてしまう経験をしたばかりだった。選手交代。急速、バレーボールをはじめてまだたった一ヶ月の一年生がコートに立った。

しかしその一年生が、サービスエースを取った。簡単には負けられないという意地を見せたが、残念ながらフルセットの末負けてしまった。

二回戦は笠田高校と対戦した。この試合に敗北すると、一日目の敗退が決まる。

センターのポジションは一試合目に抜擢された一年生がスタメンとなり、この試合から新たにリベロとして一人、ピンチサーバーとしてもう一人、一年生が試合に出場した。それぞれの選手が、練習以上の力を発揮し、クイックを決め、レシーブを成功させ、サーブで相手を崩した。二年生も負けていなかった。スパイクが相手レシーバーの腕をはじいた。ジャンプサーブがコートに突き刺さった。互いを励まし、気力を高める声かけがあった。いつも生意気な二年生が、ミスのたびに涙をこらえながら三年生のキャプテンに謝っていた。怪我をして試合に出られなくなった選手も、声を張り上げて応援を続けた。

他校の三年生や、OBの人たちまでが応援してくれた。たくさんの声援を背に受けながら、最後まで選手はボールを追い続けた。

試合は、健闘甲斐なくセットカウント1-2で敗れた。

「悔しかった。でも一番良い大会だった」「二日残ってたかった。最後まで頑張ってくれて感動した」総体が終わったキャプテンと三年生マネージャーの感想だった。

三年生はこの大会を機に引退して、新しいキャプテンが決まり、新しいチームが始まった。この悔しさを忘れることなく、大会でよい結果を出せるようこれからも練習に取り組んでいきたい。

